

安心で不安のない社会のために

鳥取市立桜ヶ丘中学校3年 田中 玲人

「緊急！緊急！直ちに非難せよ！」大雨の中、防災無線が流れる。辺りにサイレンが響き、ただならぬ緊張感が走った。家族のスマートフォンからは、緊急速報の着信音が一斉に鳴り、大雨特別警報と緊急安全確保の発令を知らせた。

令和五年八月十五日、僕の住む鳥取市は台風七号に襲われた。ニュースでは、見たことがないほど増水した河川が映し出され、橋脚に激しくぶつかる濁流は、今にも町を飲み込みそうな勢いだった。アナウンサーは「命を守る行動を！」と呼びかけ、言いようのない恐怖が僕に押し寄せた。

そんな恐怖の中、県や市のホームページで被害状況や行政の対応状況、避難所の情報を家族と確認した。河川の監視や道路の冠水に備えたパトロールが行われ、多くの避難所が開設されていると知った。この非常事態で、県や市の人も家や家族が心配なのに、住民のために働いてくれてありがたいと僕が話すと、こうした行政サービスを支えているのは税金だと、母が教えてくれた。

翌日に台風は過ぎ去ったが、親戚の住む佐治町は大きな被害を受けた。大叔母から聞いたところでは、町内の橋や川沿いの道路が崩落したり、土砂崩れで道路が通れず、孤立状態となったり、水道管が破損して断水した地域があったそうだ。多くの住民が不便を強いられたが、迅速な復旧作業によって孤立状態は解消され、水道も一週間で復旧した。

これを聞き、僕は思った。もし、道路の復旧が行われなかったらどうだろう。学校にも仕事にも行けない。買い物にも行けず、食料に困る。体調が悪くなくても病院に行けないのは、命に関わる問題だ。また、炊事や洗濯、トイレや風呂など、水は僕たちの生活に不可欠だが、水道がなければ飲料水や生活用水を確保できない。これも命に関わる問題である。家を出れば道路があり、蛇口をひねれば水が出るのが当然だと思っていたが、そうした日常生活は行政が提供するサービスにより成り立っていると痛感した。そして、それを支えているのは税金だ。税金があるからこそ、僕たちは安心して日常生活を送ることができるのだ。

道路や水道以外にも、医療や年金、教育や福祉など、幅広い分野で税金は活用されている。僕たちが不安なく日常生活を送ることができ、安心して暮らせる社会となるためには税金という存在はとても大きい。僕一人の力は微々たるものだが、社会人になったら納税の義務を果たし、安心で不安のない社会のための手助けをしていきたいと思った。